

ILCAA

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

2021-2022



ILCAA
Research Institute for
Languages and Cultures of
Asia and Africa

所長挨拶



アジア・アフリカ
言語文化研究所 所長

見 永

アジア・アフリカ言語文化研究所は、1964年の創設以来、言語学、人類学、歴史学の3分野の研究者が手を取り合い、臨地研究（フィールドワーク）をベースとした基礎研究を積み重ねてきました。2010年に「アジア・アフリカの言語文化に関する国際的共同研究拠点」に認定されてからは、アジア・アフリカ世界に関する新たな認識の枠組みを提供する基盤形成に寄与するとともに、これらの地域の多様な言語・文化のあり方をモデルに、未

来の多元的世界の発展性を追求することをミッションとし、国内外の研究者との共同研究を推進しています。グローバル化が破壊的な勢いで進行する世界においては、アジア・アフリカの多元的なあり方から学び、新たな未来をともにつくるという視点は一層重要なものとなっていくと確信しています。本研究所は今後も国内外の広範な研究者の参加を得て共同研究を展開し、その成果は様々な工夫を凝らし、広く発信していく所存です。



AA研の研究活動

アジア・アフリカ言語文化研究所（以下、AA研）は、文部科学大臣によって言語学・文化人類学・地域研究分野の共同利用・共同研究拠点に認定された「アジア・アフリカの言語文化に関する国際的研究拠点」です。その使命のもと、AA研ではおもに以下3つの領域において、国内外の関連研究者コミュニティによる共同利用・共同研究を推進しています。

(1) 臨地研究（フィールドサイエンス）に基づく国際的研究拠点としての共同利用・共

同研究

(2) アジア・アフリカ諸地域の言語文化等に関する研究資源の収集・分析・編纂および研究成果の発信

(3) 研究活動及び研修・出版・広報等の活動を通じた次世代研究者養成

これに基づき、基幹研究プロジェクト（pp.2-5）、国内外の研究者との共同利用・共同研究課題（pp.6-9）、次世代養成（pp.10-11）、研究資源の蓄積と公開（pp.12-15）等を積極的に展開しています。

研究組織構成

AA研は3つの研究ユニット（言語学、地域研究・歴史学、文化人類学）からなるプロジェクト研究部および情報資源利用研究センター（IRC）、フィールドサイエンス研究企画センター（FSC）の2つのセンターという組織体制をとっています。所員はいずれかのユニットまたはセンターに所属し、個々の専門研究領域に関わる探求を深めながら、基幹研究、共同利用・共同研究課題などに参画し、国内外の研究者との密接な協力に基づいて、共同利用・共同研究拠点



Contents

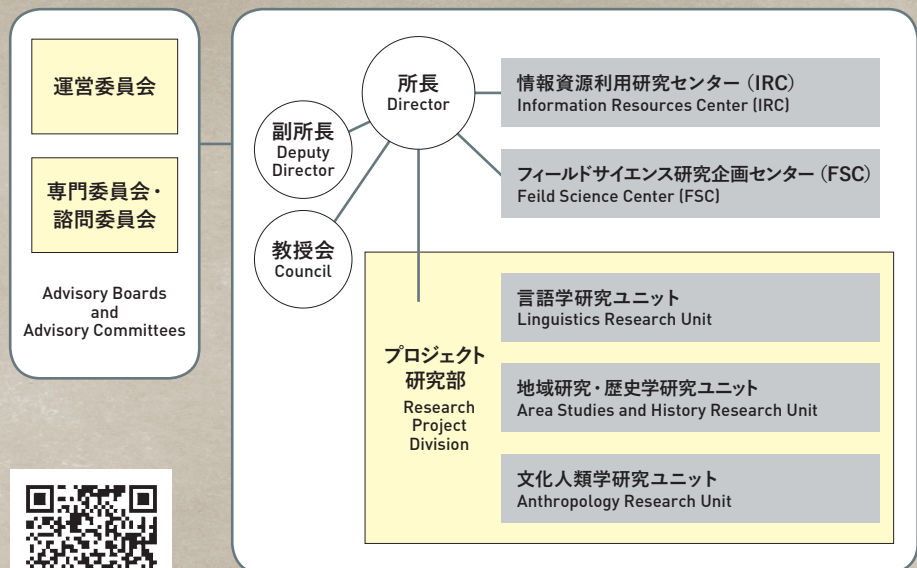
- 基幹研究 2
- 共同利用・共同研究課題 6
- 研究者養成 10
- オンライン研究資源の開発 12
- フィールドサイエンス 16
- 海外研究拠点 18
- 出版物・展示企画 20
- 所員一覧 裏表紙

にふさわしい活動を推進しています。

IRCはアジア・アフリカの言語文化に関する情報資源の蓄積・加工・公開と、それを活用した共同研究手法の開発を主に行ない、多くの情報資源をオンラインで公開しています (pp.12-15)。

FSCはAA研の研究活動の根幹である臨地調査の手法をより実践的・理論的に洗練させ、臨地調査に関わる研究者間の学問領域を横断した連携を担うことを目的に活動を展開しています (pp.16-19)。

組織図 Organization




<http://www.aa.tufs.ac.jp/>

言語学系

Linguistics

現地話者・研究者と一緒に少数派の言語のドキュメンテーションに取り組むとともに、集めた記録を様々な形で活かすための活動を行なっています。









 **Kachin folktales**
62 subscribers




HOME VIDEOS PLAYLISTS CHANNELS DISCUSSION ABOUT

[SUBSCRIBE](#)

Uploads ▶ PLAY ALL

 <p>Hka Hkrat Si H pang Ai Lam Sumla: Shawanang 10:43 Hka hkrat si h pang ai lam ကနဦး ရေနစ်သေခြင်း... 31 views • 4 days ago Subtitles</p>	 <p>Baren Shabrang Sumla: Shawanang 5:30 Baren Shabrang နဂါးကောင်လေး Young dragon ... 91 views • 2 weeks ago Subtitles</p>	 <p>U Gam Shagri Wan Nma Tsi Tai Ai Lam Sumla: Shawanang 2:03 U Gam တောင်ငုံ King quail Folktales Kachin Myanmar 95 views • 3 weeks ago Subtitles</p>	 <p>Bainam Rung Dagr Aw Ai Lam Sumla: Shawanang 1:37 Bainam rung ဆိတ်ညှိုးချို Goat horn Folktales Kachi... 112 views • 1 month ago Subtitles</p>	 <p>Shinggyim La Sha Hte Baren Shayi Sumla: Shawanang 2:00 Baren shayi နဂါးမောင်လေး Dragon girl Folktales ... 233 views • 1 month ago Subtitles</p>	 <p>Yi Sa Jan Du Ai Num Nien: Sumdu Ja Seng Roi 2:24 Man n kap ai sawa ဖျတ်နာ ခြေထောက် Faceless ghosts... 231 views • 1 month ago Subtitles</p>
--	---	---	---	---	---

Animal stories ▶ PLAY ALL

 <p>Hpa Majaw Sumla: Shawanang 4:36 Hpa majaw တာဝန်ထုပ် Why Folktales Kachin ... Kachin folktales 199 views • 1 month ago Subtitles</p>	 <p>U Gam Shagri Wan Nma Tsi Tai Ai Lam Sumla: Shawanang 2:03 U Gam တောင်ငုံ King quail Folktales Kachin Myanmar Kachin folktales 95 views • 3 weeks ago Subtitles</p>	 <p>Bainam Rung Dagr Aw Ai Lam Sumla: Shawanang 1:37 Bainam rung ဆိတ်ညှိုးချို Goat horn Folktales Kachi... Kachin folktales 112 views • 1 month ago Subtitles</p>
---	--	--



「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築」(LingDy3)

代表者：塩原朝子

関連所員：安達真弓，倉部慶太，呉人徳司，児倉徳和，澤田英夫，品川大輔，中山俊秀，星泉，山越康裕，渡辺己

アジア・アフリカの国々はそのほとんどが多民族国家であり、個々の民族が固有の言語・文化を保ちながら共生してきました。しかし近年の社会的変化により人々は共通語である国語・公用語をより多くの場面で使うようになり、そのことが言語・文化の様相に影響を及ぼしています。このプロジェクトではこのような変化の中で失われつつある少数派の言語・文化を記録する言語ドキュメンテーションに力を入れています。

言語ドキュメンテーションの目的は、言語に映し出される個々の民族コミュニティの文化の様相を包括的に記録することです。このような記録を民族語の話者や現地の研究者とともにを行うため、私たちは世界各地でワークショップを開催してきました。

このプロジェクトでは、言語ドキュメンテーションの成果を活かす試みとして、記録の中から話者が喜んでくれそうな物語を選んで絵本や紙芝居などの作品を作成するという活動も行なっています。このようなコンテンツを話者と共有することにより、話者たちが自分たちの言語・文化に新しい価値を見出してくれることを私たちは期待しています。

多様な言語の記録はその言語の話者だけでなく人類全体の財産です。少数民族の文化を広く世界に知ってもらうため、辞書、物語や文学作品、映像作品などを日本語や英語などの対訳がついた形で出す試みも行なっています。

多様な言語の記録は言語学者にとっても宝物です。記録を分析することにより、系統的にも異なり地理的にも離れている言語の間によく似たコミュニケーションのパターンがあることがわかったり、特定の言語群にしかみられない言語構造上の特徴が見つかったりすることもあります。このような観察から生まれるのは、人は言語を使って何をしているのか、言語はそのためどのような形を持ちうるのか、という普遍的な問いです。

言語の記録にはそれを話してきた人々の歴史も反映されています。ある地域の言語を網羅的に記録することにより、かつて人々がどのように移動し、接触したのかを推測することができるのです。言語の記録と観察を出発点とするこのような様々な問いを解明すべく、私たちは調査地の研究者や世界各国の研究者と共同で様々な研究プロジェクトを進めています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/ling-core>



1 フィールドワーク中の一コマ 2 インドネシアでのワークショップ (Widya Mandira Catholic 大学) 3 モンゴル国立大学でのワークショップ 4 ジンポー語 (ミャンマー) の紙芝居の YouTube ページ 5 絵本『白鳥と狩人』(日本語・ブリヤート語のバイリンガル絵本) 6 チベット語の発音が聞けるウェブ版『チベット 牧畜文化辞典』<https://nomadic.aa-ken.jp/search/> 7 南部バントゥ諸語のデータ収集ワークショップ (南アフリカ共和国ヴェンダ大学で開催。アフリカ 5 ヶ国との共同事業 ReNeLDA <https://lingdy.aa-ken.jp/news/7026>) の活動の一環。

人類学系

Anthropology

世界が不確実性や偶然性の只中にあることを、今ほど感じることはありません。
本基幹研究は、アジア・アフリカの在来知の可能性を、個別性を越えた普遍的・実践的視野から探究します。



1 ケニアの牧畜民・チャムスの牧童。休息し反芻する牛たちに囲まれて。(撮影:河合香史) 2 ウガンダの牧畜民・ドドスの少女。小さな妹を抱く。額には「命を護る」白い泥が塗られている。(撮影:河合香史) 3 バリの葬式(撮影:吉田ゆか子) 4 マレーシアの狩猟採集民バテツの親子。ドリアン採集からキャンプへと戻る。(撮影:河合文)

「アジア・アフリカにおけるハザードに対処する『在来知』の可能性の探求—人類学におけるマイクロ・マクロ系の連関2」

代表者：西井凉子

関連所員：河合香史, 栗原浩英, 外川昌彦,
床呂郁哉, 吉田ゆか子, 河合文

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/anthropology-core>

文化人類学はある時期まで、小規模社会でのフィールドワークを活動の中心としてきました。しかし近年、国内外において、「上位」の政治社会にあたる国民国家や「近代世界システム」をはじめ、イスラーム世界、中華世界、インド洋海域世界、南アジア世界といったトランスナショナルな社会・文化圏、さらにはグローバルな地球環境を視野に入れたマクロ・パースペクティブな研究への必要性や関心が高まってきました。

他方、その対極にむかう方向性として、個々人の身体性を分析・考察の起点とした、間身体的実践、ハビトゥス、熟練と暗黙知、アフオーダンス、社会空間など、マイクロ・パースペクティブな問題系も同時に浮上しつつあります。

このような国内外の研究動向をふまえて、人類学的思考として現在求められているのは、地域別の研究や個別の主題に基づく調査研究をこえた、アジア・アフリカの「在来知」の新たな概念化や理論化の試みであり、それを国内外に向けて発信し、グローバルな状況下の現代的諸問題の解決に寄与することです。

基幹研究人類学班は、「アジア・アフリカにおけるハザードに対処する『在来知』の可能性の探求」のテーマのもとで、これらの課題に先導的な役割を担う共同研究を推進します。

中東はアジアとアフリカをつなぐ地域であり、イスラーム圏はそれを大きく包み込む地域概念です。アジアとアフリカをイスラームとその関係性から見直す研究を推進しています。



1 エジプト、ナイル・デルタ地帯の田植え風景。エジプトは中東で希少な稲作可能地域で、アラブ地域のコメ料理では、エジプト産米が長く使われてきた。(撮影：熊倉和歌子) 2 レバノン南部にイスラエル軍が残していった戦車。(撮影：黒木英充) 3 中東都市多層ベースマップシステムのトップページ。

「中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景」

代表者：黒木英充

関連所員：飯塚正人， 苅谷康太， 熊倉和歌子，
後藤絵美， 近藤信彰， 高松洋一， 床呂郁哉，
野田仁

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/history-core>

「中東」は20世紀初めに出現した地域概念で、今日まで変化し続けています。また私たちは「イスラーム圏」を広くとらえており、それはグローバルに拡大しています。イスラーム教徒と非イスラーム教徒とが(またイスラーム教徒同士が)相互的な交渉や関係性をどのように形成してきたか、そこでどのような文化をつくり上げてきたのか、といった問題をテーマにしています。現代世界において社会的な分断と分極化の高まりが見られますが、中東・イスラーム圏においても内戦や宗派対立が激化し、欧米を含めた世界各地でイスラームをめぐる社会問題が深刻化しています。本基幹研究はこれを長い射程の中で多方向から総合的にとらえる研究をしています。社会の歴史的基層に実証的に取り組む研究や、現代の政治体制に関する比較研究、新しい人文情報学の手法を使った研究などを進め、それらを基盤にした大型プロジェクトも立ち上げました(科研費学術変革領域研究(A)「イスラーム信頼学」)。バイルートとコタキナバルの海外拠点を活用した国際的学術交流、中東☆イスラーム研究/教育セミナーその他の次世代研究者育成にも力を入れています。

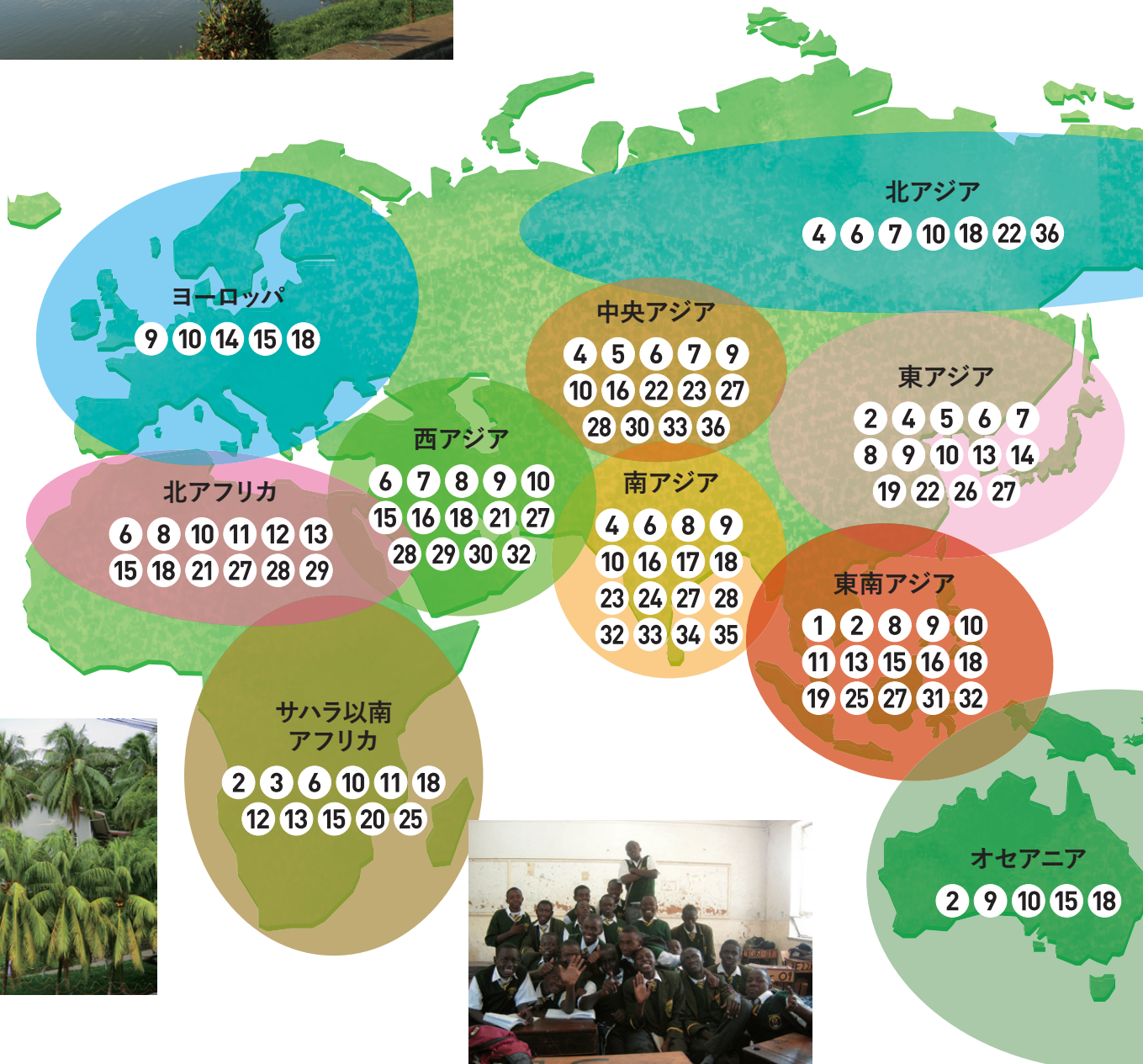
対象地域 Target Areas

AA 研の共同利用・共同研究課題が対象とする地域はアジア・アフリカ地域に限らず、全世界に及んでいます。国内外の延べ400名を超える共同研究員が参画しています。
※地図中の番号は右のリストの番号に対応しています。



言語学系

- ① 東南アジア大陸部地域語彙の類型論的研究
- ② The Social Cognition Parallax Interview Corpus(SCOPIC)に基づく社会認識の言語標示に関する研究
- ③ バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究(2)
- ④ 「アルタイ型」言語に関する類型的研究(2)
- ⑤ チベット・ヒマラヤ牧畜文化論の構築:民俗語彙の体系的比較にもとづいて
- ⑥ アジア・アフリカ地理言語学研究
- ⑦ チュルク諸語における情報構造と知識管理:音韻・形態統語・意味のインターフェイス
- ⑧ アジア文字研究基盤の構築(2)
- ⑨ 移民の継承語とエスニックアイデンティティに関する社会言語学的研究
- ⑩ 理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求
- ⑪ 日琉語族内的声調類型論の再構築
- ⑫ 多言語混在状況を前提としたアフリカ記述言語学研究の新展開
- ⑬ 通言語的観点からみた音声類型論
- ⑭ アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究(2)



人類学系

- ⑮ 負債の動態に関する比較民族誌的研究
- ⑯ 東南アジアにおけるイスラーム主義と社会・文化要因の相互作用に関する学際的研究：トランスナショナルなネットワークと現地の応答
- ⑰ 南アジアの社会変動・運動における情動的契機
- ⑱ 死の人類学再考：変容する現実の人類学的手法による探究
- ⑲ 新型コロナウイルス感染拡大下における芸能に関する学際的研究
- ⑳ グローバル時代のアフリカの「若者」のキャリア志向と「現実」との交渉：東部アフリカを中心に

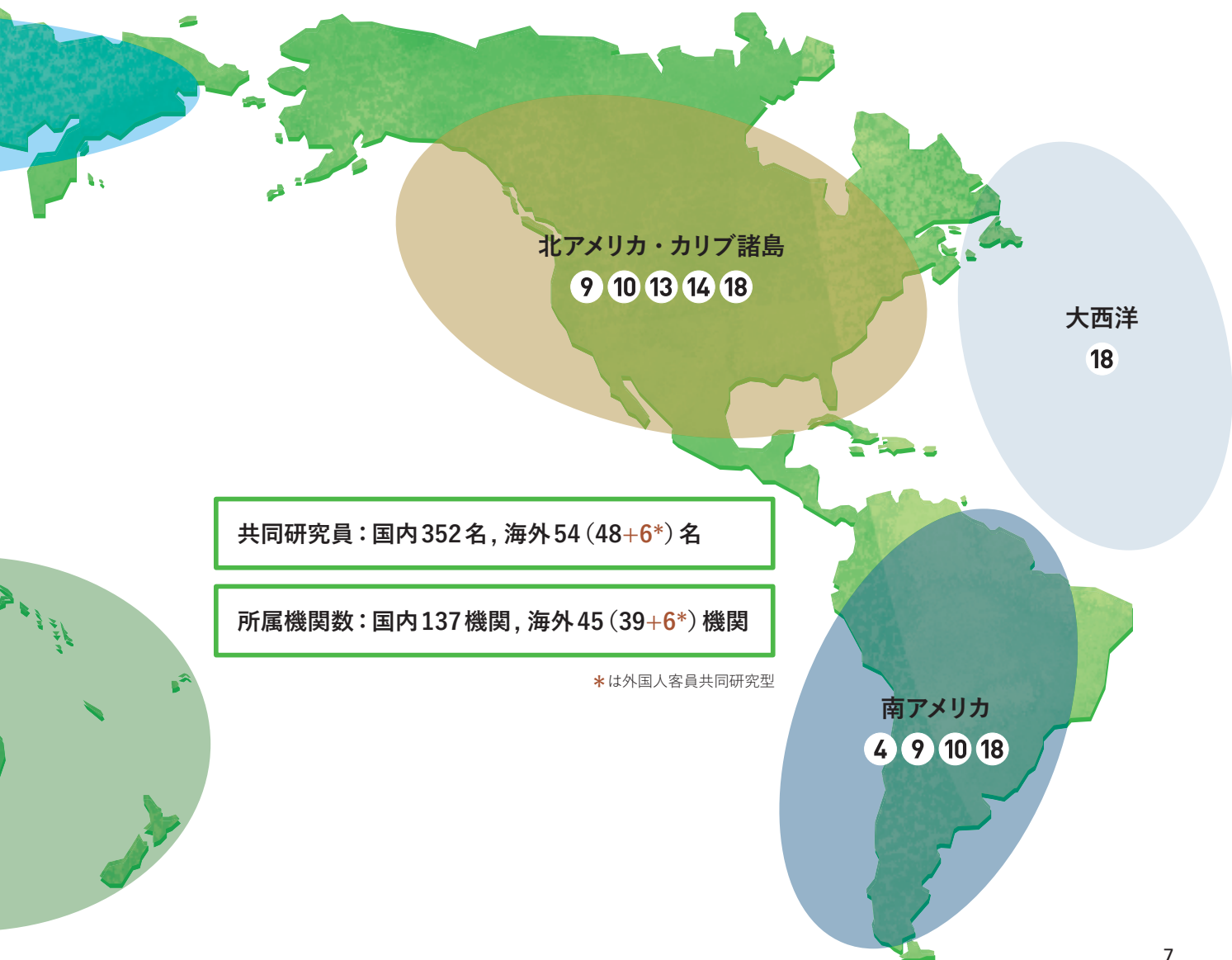
地域研究・歴史学系

- ㉑ 現代アラブ君主制における正統性原理の変容と再興：イスラーム主義との相克
- ㉒ 近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照
- ㉓ ジャワ語及び東南アジア諸語テキストにみる宗教変容：イスラーム化過程における国家の戦略と役割
- ㉔ 「インド世界」の形成：フロンティア地域を視座として
- ㉕ アフリカ農業・農村社会史の再構築（2）：在来農業革命の視点から
- ㉖ 秦代地方県庁の日常に肉薄する — 中国古代簡牘の横断領域的研究（4）
- ㉗ アジア時空間データベースの構築
- ㉘ 現代ムスリム知識人の変容と交流：旧社会主義圏のネットワークを中心に
- ㉙ 中東・イスラームの歴史と歴史空間の可視化分析：デジタル化時代の学知の共有をめざして
- ㉚ イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究：イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として（2）



外国人客員共同研究型

- ㉛ Religious Movements among the Karen People in the Deterritorialized Thailand-Myanmar Borderland
- ㉜ A Muslim Epic and Its Politics in Early Modern Asia: *Amir Hamza* from Iran to South and Southeast Asia
- ㉝ Comparative Study of the Tangut, Sanskrit, Tibetan Versions of the Bodhicaryavatara by Santideva
- ㉞ Socio Economic Dynamics of Transformation of Rural Societies and Migration in Bangladesh with Particular Focus on Gohira Village
- ㉟ Buddhist Revival Movement in Modern India: Japanese Scholar Kimura Nichiki and His Role in Indo Japan Relationship
- ㊱ ユーラシア中央部諸言語の知識管理の研究：トゥヴァ語とシベ語を中心に



人類学系

Anthropology

MAP18 「死の人類学再考:変容する現実への人類学的手法による探究」

代表研究者：西井凉子 (AA 研)

共同研究員：丹羽朋子, 磯野真穂, 加賀谷真梨,
金セツピョル, 黒田末寿, 田中 大介, 土佐 桂子

本研究は、死をめぐる人類学的なフィールド実践から、生きる現実を新たな視野のもとで捉え直すことを目指す。そこでは、生が個の意図や主体性をこえて、世界と抗しつづ行為するなかで、常に生成され続けているとする視点をとる。死は、それが自己の死であれ、他者の死であれ、人が生きる現実にとって根源的な経験である。本研究では、日常的なリアリティが変容するなか、東日本大震災や新型コロナウイルスといった突発的な災害死や、多死社会、介護の現場や死の医療化、葬儀の現場などから、生と死の境界に焦点化することで、生きる現実に向ける。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp/jrp273>



MAP19 「新型コロナ感染拡大下における芸能に関する学際的研究」

代表研究者：吉田ゆか子 (AA 研)

共同研究員：増野亜子, 阿部武司, 大田美佐子,
小塩さとみ, 神野知恵, 鈴木正崇, 竹村嘉晃, 長嶺亮子,
前原恵美, 武藤大祐

新型コロナ感染症の流行によって、多くの活動が制限された時期、そしてその後の「新しい日常」のなかで、世界の芸能はどのように実践されているのか。またその表現や伝承や発表のあり方、そして社会における芸能の役割は、どのように変わってゆくのだろうか。本研究では、東アジアおよび東南アジアを中心にしながら、芸能やそれを取り巻く社会的状況とその変化を記録するとともに、多様な地域およびジャンルの事例を持ち寄ることでこれらの問いについて考える。また、平常時とは異なる様相を見せる芸能の姿から、どのように我々の芸能への理解を深めることができるかを検討する。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp/jrp274>



MAP 24 「『インド世界』の形成：フロンティア地域を視座として」

代表研究者：小倉智史 (AA 研)

AA 研所員：近藤信彰, 外川昌彦, 太田信宏
共同研究員：稲葉穰, 置田清和, 小林亮介, 申才恩,
高島淳, 拓徹, 登利谷正人, 古井龍介, 宮本亮一,
横地優子, 吉水千鶴子, Diwakar Acharya

本研究課題は、南アジアのフロンティア地域における文化接触と変容を、古代から近代までの長期的な視野のもと、比較考察することを目的とします。ベンガル、アッサム、ネパール、ヒマラヤ、カシミール、パンジャブ等の地域で生じていた文化接触や、地域アイデンティティと帰属意識の形成に注目して、地域アイデンティティとより大きな「インド世界」への帰属意識との関係や、中央アジアや西アジアなど他の歴史世界と、これらフロンティア地域とのつながりを明らかにすることを目指します。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp/jrp252>



言語系

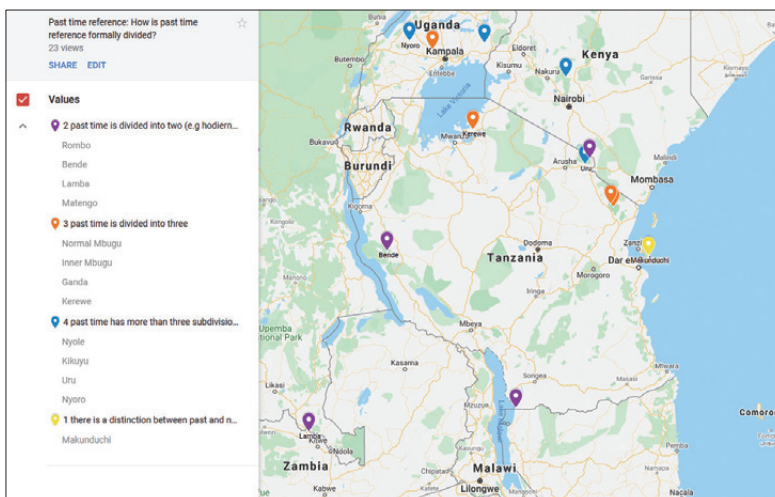
MAP 3 「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究(2)」

代表研究者：阿部優子 (蘭州大学)

AA 研所員：品川大輔
共同研究員：安部麻矢, 梶茂樹, 角谷征昭, 小森淳子,
古本真, 牧野友香, 宮崎久美子, 森本雪子, 米田信子,
若狭基道, Koen BOSTOEN, Hannah GIBSON,
Rozenn GUÉROIS, Seunghun LEE, Lutz MARTEN

本研究課題では、サハラ以南アフリカの広大な地域で話され、その総数は500言語を超えるとされる一大言語群バントゥ諸語の文法的多様性をテーマにした共同研究に取り組んでいる。各メンバーがアフリカのフィールドで、現地コミュニティに入り込んで収集したデータを突き合わせることで、構造レベルの微視的で多様な言語間変異—マイクロ・バリエーション—を、いわば文法現象のスペクトラムとして実証的に提示する。そして海外の連携プロジェクトとの協働をとおして、そのような類型的多様性を導出する背景原理への接近も試みている。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/jrp/jrp248>



中東・イスラーム関連セミナー

中東もしくはイスラーム世界に関心をもつ大学院生や若手研究者を対象に、最新の研究情報を提供して知識の幅を広げ、研究発表や討論の能力を高めることを目的としています。

●中東☆イスラーム研究セミナー／教育セミナー

「研究セミナー」では、大学院博士後期課程在籍者や博士論文の準備をしている方、その後のブラッシュアップをお考えの方を対象に、長時間の研究発表と徹底した討論の機会を提供します。2005年度から2020年度までに107名が参加しています。

「教育セミナー」は、大学院生を対象に、AA研スタッフと所外からの招聘講師による講義と受講生の希望者による研究発表と討議からなるものです。全国から集まる受講生にとって、講師の研究者のみならず、受講生相互においても交流する貴重な機会になっています。2005年度から2020年度までに240名が参加しています。

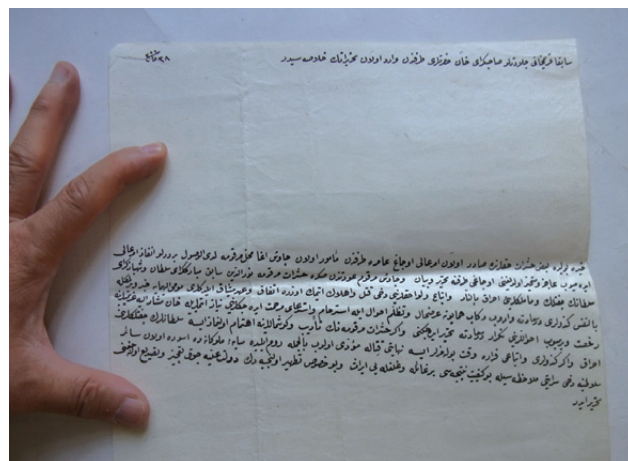
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/meis/meis-semi>



●ベイルート若手研究者報告会

日本において中東に関連する人文・社会科学（地域研究・歴史学・人類学・イスラーム学・政治学・経済学など）を専攻している若手研究者に対して、中東の学術の中心地ベイルートにて研究報告する機会を提供しています。若手研究者の研究成果をレバノンをはじめとする中東の研究者たちに広く知っていただくとともに、専門家同士の密度の濃い議論が交わされる場となっています。2006年度から2019年度までに67名が参加しています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/meis/beirut-semi>



●オスマン文書セミナー

オスマン朝で作成された手書きの文書・帳簿を古文書学・アーカイブ学的視点から学ぶ演習形式のセミナーです。毎回異なった史料類型を取り上げ、最初に講師が様式論的解説を行ったのち、参加者を指名して購読していきます。2008年度以降、年に1回、2日間にわたって開催し、学部生から大学教員まで毎回30名を超える受講生が参加しています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/meis/meis-semi>

言語研修

AA研の設立後間もない1967年から開催している短期集中型の研修です。研究者とネイティブ話者がペアで講師を務め、生きた言語を伝えてきました。

言語研修は当研究所が設立後間もない1967年から開催している短期集中型の研修です。アジア・アフリカで話されている言語を主に扱い、国語・公用語だけでなく少数民族の言語など他では学習することができないような言語の研修も積極的に行なっています。どの研修も対象言語を専門とする研究者とネイティブ話者がペアで講師を務め、語学だけでなく現地調査や文献調査を行うために必要な言語知識や調査の手法など、専門的知識の教授も行っています。記述言語学のトレーニングとして研究がほとんど進んでいない言語を対象としたフィールドメソッド方式の研修も行なってきました。



ともになまなぶ

ゾンボ語 **ゾンカ語**

この研修はアジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的とする短期集中型言語研修です。日本の専門研究者と母語話者が一緒に教授にあたる生きた言語教育である点が特徴です。

ゾンボ語：2019年8月19日(日)～2019年9月6日(土) 計75時間 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
ゾンカ語：2019年8月19日(日)～2019年9月6日(土) 計75時間 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

【募集期間】 第一次募集 2019年5月7日(火)～2019年5月24日(水)
第二次募集 2019年6月3日(月)～2019年6月25日(水)
※定員に達した時点で募集は締め切り、二次募集も行いません。

【募集人数】 各言語とも10名程度

【問合せ先】 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2階 206号
研究協力員岡田研太郎氏(言語研修担当)

〒158-8501 東京都目黒区三軒が樋 2-11-1
TEL 042-330-5603 FAX 042-330-6010
Email kcaaa@tufs.ac.jp

【主管/主催】 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
【協賛】 東京外国語大学国際文化センター

※詳細についてはアジア・アフリカ言語文化研究所のホームページをご覧ください。URL: <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

2019年度
言語研修生募集 アジア・アフリカ言語文化研究所 **AAI**
Research Institute for Language and Culture in Asia and Africa

これまでに研修を実施した言語の数は、約140言語、修了者数は延べ1200名以上にのぼります。修了者の中にはアジア・アフリカ地域の専門家として活躍している人も数多くいます。

この研修のため講師陣が独自に教材を開発していることも大きな特徴の1つです。これまでに作成されてきた教材の一部は大学リポジトリ<http://repository.tufs.ac.jp/>から公開されています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc>

●フィールド言語学ワークショップ

アジア・アフリカの個別言語の記述的研究を専門とする研究者を対象にフィールドワーク言語学の手法を共有するためのワークショップです。主な参加者は大学院生・ポスドクなど若手研究者で大学の枠を超えた研究者ネットワーク構築の一助となっています。

フィールドワークの手法や収集したデータの処理方法、さらにはデータを研究に活かす方法までを扱う「テクニカルワークショップ」と若手研究者が記述的研究の成果を発表する「文法研究ワークショップ」の2つの枠で開催しています。

文化／社会人類学研究セミナー

AA研の基幹研究における人類学系若手研究者育成事業として、実施しています。

2011年度より開催してきた本セミナーでは、博士論文や投稿論文を執筆中の文化人類学／社会人類学／生態人類学を専門とする大学院生や若手研究者が研究発表し、発表草稿を博士論文や投稿論文に練り上げるための学術的議論の場を提供しています。2015年度からは日本文化人類学会(次世代育成セミナー)との共催となりました。発表者ごとに、論文の査読に匹敵するようなかたちで内容にふさわしいコメンテーターがつき、最新の学術的議論に関する情報提供を行なっています。またセミナー参加者が同じ世代の若手研究者の発表を聞いて異なる観点から意見を交わすことで、知識の幅を広げることも目的としています。本セミナーによって所属をこえた研究者間の交流が促進され、若手研究者の研究活性化につながることを期待しています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/cul-soc-anthro-sem>

大学院教育

AA研は言語学・人類学・歴史学の各分野に多くのスタッフを擁しています。専任教員のうち助教を除いた教授・准教授全員が、東京外国語大学大学院総合国際学研究科における教育活動に参画しています。主としてアジア・アフリカ地域を研究対象とした、言語学、人類学、歴史学などを専門分野とする博士後期課程の学生を受け入れ、指導を行なっています。さらに、博士前期課程の教育活動にも一部教員が参画しています。AA研に所属する教員を主任指導教員とする大学院生は現在は少数ですが、人類学・歴史学の合同ゼミをはじめとした特色ある手厚い指導を行なっています。AA研が展開している各種セミナーへの参加を通じて、同分野の他大学の大学院生との交流ができる点も大きな特徴といえます。

■指導体制

AA研の教員を主任指導教員とする博士後期課程では、一部合同ゼミの体制をとっています。人類学・歴史学ゼミでは毎週1回合同ゼミが開かれ、担当教員・学生の全員参加のもと活発に議論する場として論文指導に活かされています。



歴史学は、VRに、何をもたらすか？

VR Project

VR ツアー 「QALAWUN VR PROJECT」

Qalawun VR Projectは、空間情報の保存と利用の新たな方法としてVR技術に注目し、VRツアー等のコンテンツ作成を通じて、歴史学研究と教育におけるVR技術利用の意義や課題について検討しています。

メンバー：熊倉和歌子，深見奈緒子，吉村武典，亀谷学，久保亮輔，山田弦太郎，Mohamed Soliman

2019年度に開始した本プロジェクトは、カイロ（エジプト）の中世イスラーム建築の傑作であるカラーウーンの寄進施設のVRツアーをオンラインで公開した。これは、歴史や建築に関する知識を得ながらヴァーチャル・ツアーを楽しむことができるものである。プロジェクトのウェブサイトは、奇しくも、COVID-19が拡大する最中に公開され、多くの反響を得た。その後、授業のオンライン化により、オンラインコンテンツへの需要が高まったことを受けて、2020年度は、学習コンテンツ作りに注力し、歴史・建築用語を収録したグロッサリーや、VRツアー内の解説で得られる知識をさらに掘り下げる「深掘り解説」を用意した。加えて、「楽しく学べて・理解しやすい」教材として、専門知識のエッセンスをイラストやマンガでまとめたコンテンツを作成した。

<https://qalawun.aa-ken.jp/>





application

「LingDyTalk」

少数言語の音声資料は研究者だけのためにあるのではなく、その話し手やコミュニティに対しても還元される必要があります。スマホアプリLingDyTalkは、コミュニティでも活用されるスマホを通じて音声資料を話し手に届けるために開発されました。

メンバー：山越康裕，児倉徳和

LingDyTalkは基幹研究「多言語・多文化共生に向けた循環型の言語研究体制の構築」(LingDy3)プロジェクト(pp.2-3参照)を通じて開発された、数字認識機能を活用した音声再生アプリです。書籍コードを入力したのちに数字(たとえばページ番号)をスキャンすることで、あらかじめサーバに格納されている音声データを再生します。

印刷されたものと音声データとを結びつける方法としては、QRコードを用いる方法もありますが、その場合はあらかじめQRコードを印刷しておく必要があります。一方このアプリは「数字」を認識して音声データを再生する方法を取っているため、ページ番号や例文番号のように数字が印刷されていれば、その数字を通じて音声を再生することが可能となります。つまり、すでに刊行されている書籍や印刷物にも後から音声を紐づけられる点が大きな特徴・利点といえるでしょう。

手軽に動画や音声再生できるスマートフォンは、少数言語の記録・保存と再活性化に寄与するツールとして、今後ますます活用されることが期待されます。

<https://lingdy.aa-ken.jp/publications/tools-and-archives/3980>



使用方法

アプリを起動すると、まず書籍のコードを入力する画面があらわれます。ここで書籍に記載されているコードを入力し[>>]ボタンを押すと次の画面に進みます。そこで音声が収録されているページのページ番号をカメラで撮影するか、スロットを回して数字を入力し再生[▶]ボタンを押すと、音声が再生されます。

dictionaries

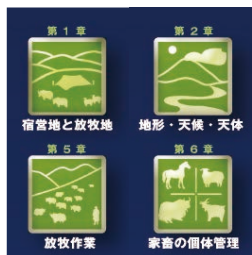
「チベット牧畜文化辞典」

メンバー：岩田啓介，海老原志穂，南太加，平田昌弘，別所裕介，星泉，山口哲由

本辞典はチベット・アムド地方におけるヤクや羊を中心とした牧畜生活のなかで日常的に用いられてきた民俗語彙を網羅的に収集・記録した約4900項目からなる辞典のWeb版です。6年あまりにわたり、学際的な現地調査と共同研究をおこなってきた成果をまとめ、チベット語からも日本語からも、また分類項目からも検索できる辞典として、2020年3月に公開しました。本辞典にはWeb版の他に書籍版とiOSアプリ版があります。Web版には辞典とリンクした牧畜文化コラムも用意しています。



<https://nomadic.aa-ken.jp/>



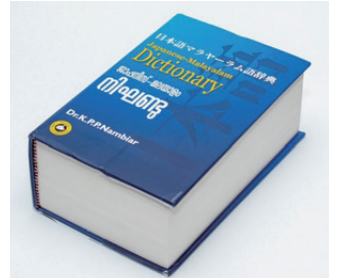
充実した文化項目分類

チベットの牧畜文化の全体像をつかめるように、乳加工、家畜表現、地形認識、衣食住、冠婚葬祭、宗教といった28の大項目を立てています。馴染みのない牧畜文化の概念に親しめるよう、中小の項目立てには特に工夫を凝らしました。音声も聞けるほか、写真・図版を豊富に収録しています。

「日本語マラーラム語辞典」

メンバー：高島淳，峰岸真琴

『日本語マラーラム語辞典』(2019年)は、インド・ケララ州の公用語であるマラーラム語(使用人口3500万人)と日本語の対訳辞書です。日本語とマラーラム語との間にはこれまで本格的な辞書は存在しませんでした。



三省堂出版の協力により提供された、5万3千語以上の現代的な日本語の見出し語および例文とマラーラム語の対訳とからなっています。アジア書字コーパス拠点(GICAS)の研究プロジェクトで培われた文字処理法と辞書作りのノウハウを注ぎ、IRCプロジェクトによって構築したオンライン版電子辞書は、日本語あるいはマラーラム語の母語話者のどちらも利用できるように設計され、日本語、マラーラム語に加え、英語からの検索が可能です。

同辞書をもとにして、紙媒体の辞書(1500頁)が2019年3月にケララ州言語研究所から刊行されました。インド中央政府の補助金を受け、価格もわずか1000ルピー(約1700円)に抑えられており、マラーラム語母語話者の日本語学習に便利なように、日本語の漢字にはマラーラム文字による読み仮名をつけるなどの工夫が施されており、英文による簡易日本語文法も備えています。同辞書は2019年に、インド・ドラヴィダ言語学会から、優れたドラヴィダ語研究の成果に贈られるヘルマン・グンデルト博士基金賞を受賞しました。

インドでの授賞式については下記リンク先の記事をご覧ください。

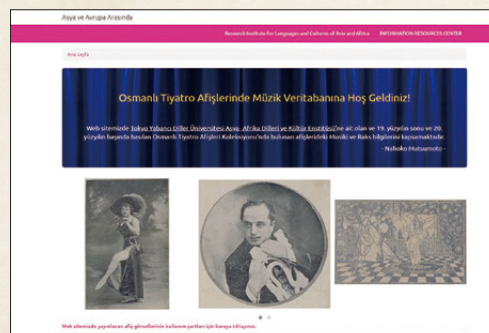
<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/event/news/award>

2020年度 IRC プロジェクト

IRCでは2020年度に20件のデジタルリソース・プロジェクトを進めました。そのうち、8件は新規のプロジェクトです。(※は新規プロジェクト)

- ・ツバル語ココヤシ文化語彙集*
- ・Old Tibetan Documents Online
- ・カイロ圏都市研究のデジタルプラットフォーム構築*
- ・仮想現実の利用が可能な視覚資料の保存・公開とその利活用のための基礎的研究
- ・カイロのイスラーム建築データベースの構築*
- ・Matsya project ヴィシュヌ教関連写本マイクロフィルムのデジタル化
- ・アイヌ語音声資料の文字化テキスト対応づけと公開(第7期)
- ・モンゴル諸語テキストのオンライン公開*
- ・牟田口義郎の撮影した1950~60年代の西アジア・北アフリカ・地中海沿岸諸国カラー写真画像データベース化*
- ・声調の音韻と音声に対する統語構成の効果—音声データのデジタルアーカイブ化*
- ・南部バントゥ諸語の形態統語論的 Microvariation に関するテキスト及び音声データのデジタルアーカイブ化*
- ・チベット・ビルマ諸語の音声データのデジタルアーカイブ化
- ・カチン・ポータルサイトの構築
- ・ユーラシア言語文化研究著作物の電子化*
- ・シベ語出版物データベースの作成(第2期)

- ・チュルク諸語対照基礎語彙(第7期)
- ・マレー語・インドネシア語オンラインコーパス検索システム Malindo Conc の拡充
- ・アラビア文字紀年銘(クロノグラム)年代計算プログラム
- ・オスマン演劇ポスター画像公開プロジェクト
- ・オスマン演劇ポスター・音楽データベースプロジェクト



<https://irc.aa.tufs.ac.jp/>

研究連携ネットワーク

Collaboration Networks

アジア・アフリカの言語学・人類学・歴史学・地域研究分野の研究者・次世代研究者ネットワークの中核として共同研究を展開するほか、より広い視野での分野横断的なネットワーク形成・維持にも積極的に取り組んでいます。

●海外学術調査フォーラム

海外学術調査フォーラムは、海外調査のさらなる展開や分野の垣根を越えた内外の研究者のネットワークを構築する、研究者に開かれた学術交流・情報交換の場として、1975年以来、AA研が企画・運営にあたってきました。第一線で活躍する研究者を招いたワークショップと意見交換のテーマ別分科会、日本学術振興会・科研費担当者を招いた全体会議、ポスター展示の海外学術調査フェスタから構成され、毎年、6月頃に開催されています。

科研費の関係者をはじめとして、海外調査に関わる多様な分野の研究者が集う研究交流の機会として、2004年度までは「研究連絡会」の名称で、2010年度までは「海外学術調査総括班フォーラム」として実施され、2019年度には、テーマ別分科会や若手研究者への支援を拡充し、新たな装いのもとで開催されています。



3つの特徴

■全体会議

全体会議では、日本学術振興会担当者（研究助成課長）による科学研究費執行に関する講演会を開催し、新たな科研費制度の導入や執行方法への対応などについて、海外調査を予定している研究者と学術担当者との、質疑応答や意見交換を行います。

■テーマ別分科会

午前中のワークショップでは、様々な分野の第一線で研究を行う研究者をお招きして、海外調査や共同研究の可能性について議論します。その後、テーマ別分科会では、ワークショップ講師を囲んで議論を深め、さらに、海外調査に関わる様々な課題についても議論します。

■海外学術調査フェスタ

海外学術調査フェスタでは、若手研究者を中心としたポスター・セッションを行い、海外調査で豊かな経験を積んだ研究者と、新たに現地調査に臨もうとする研究者、近い将来フィールド調査研究を計画している研究者などによる情報交換や研究交流の機会を提供します。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~gisir/index.htm>



●フィールドサイエンス・コロキウム

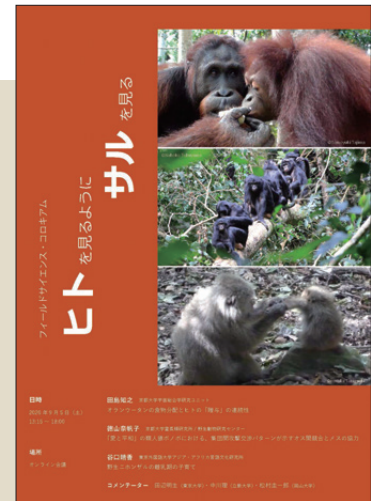
フィールドサイエンス研究企画センター(FSC)では、人類学や地域研究など、現地研究に基づく諸学を「フィールドサイエンス」と名付け、「臨地研究」や「現地学」、「フィールドの知」などの現地調査に関する知見や成果を分野横断的に比較検証し、より有効な研究手法の開発や関連理論の構築を目的に、フィールドサイエンス・コロキウムと名付けた研究会を開催しています。

「フィールドでの調査研究にはどのような意味や重要性があるのか?」、「各分野のフィールド調査はどのように実践されているのか?」、「フィールドの調査で得られた知見と広義の理論化や理論構築の作業はどのように連続しているのか?」などのテーマについて、様々な分野で活躍する研究者をお招きし、研究報告と討議を行なっています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/about/organization/fsc/colloquium>

フィールドサイエンス・コロキウム (2015年度～)

- ・2015年度 第1回 連続ワークショップ第1回「データと論文の間ーフィールドサイエンスにおける論証とは」 2015年7月10日
- ・2015年度 第2回 連続ワークショップ第2回「データと論文の間ーフィールドサイエンスにおける論証とは」 2015年12月26日
- ・2016年度 第1回 ワークショップ「災害と／のフィールドワーク」 2016年6月17日
- ・2016年度 第2回 連続ワークショップ第3回「データと論文の間ーフィールドサイエンスにおける論証とは」 2017年2月12日
- ・2017年度 第1回 ワークショップ「リスク・ハザード・レジリエンス」 2017年10月27日
- ・2017年度 第2回 ワークショップ「フィールドワークをフィールドワークする」 2018年2月16日
- ・2018年度 第1回 『環境変化とインダス文明』プロジェクトから」 2018年9月21日
- ・2018年度 第2回 『地域研究からみた人道支援』をめぐって」 2018年11月18日
- ・2019年度 第1回 「フィールドで出会う性、性から出会うフィールド：イスラームとジェンダーとの関わりから」 2020年1月10日
- ・2019年度 第2回 「サルを見るようにヒトを見る」 2020年3月7日
- ・2020年度 第1回 「ヒトを見るようにサルを見る」 2020年9月5日
- ・2020年度 第2回 「歴史ビッグデータ研究の現在と未来」 2021年1月22日



●フィールドネット Fieldnet

Fieldnetは、FSCを拠点に活動を進めているプロジェクトです。日本国内外でフィールド・ワークを行う研究者に、文系理系、専門分野や所属をこえて幅広く参加していただき、フィールドや研究上の情報を提供しあう場として、また互いの知をむすび、新たな共同研究の輪を構築するネットワークとして機能することを目指しています。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/projects/fieldnet>



Fieldnetのサイトでは、フィールド・ワークのための情報を探したり、フィールドで得られた情報を公開し、他の研究者と共有したりすることができます。研究者同士が知的に刺激を与えあい、分野をこえた共同研究を始めたり、科研費などを共同で申請したり、といった可能性にも期待しています。



COVID-19に関わるフィールド・ワーカーの経験と知見を共有し蓄積する特設サイトです。感染拡大がフィールド・ワークや海外での研究生活にどのように影響したのかについて記録し、共有し、後世に残すことをおまな目的としています。

フィールドネット・ラウンジ

フィールドネット・ラウンジと題し、若手研究者による学際的な研究会の企画を公募し、助成しています。次世代の研究者がシンポジウム等を積極的に企画・実施し、研究者間ネットワークを広げるための一助となることを目的としています。また、ラウンジを通して、分野をこえた研究者間での情報交換やディスカッションの場も提供しています。





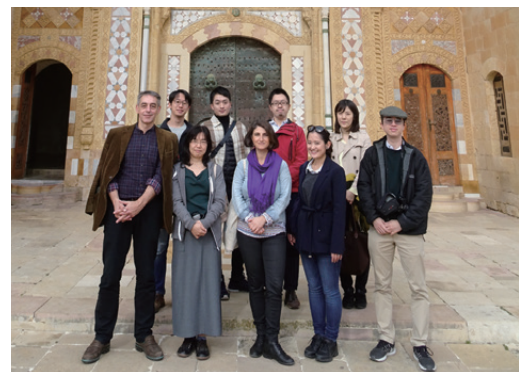
中東研究日本センター (略称 JaCMES)

JaCMESは、2005年にレバノン政府の認可を得て2006年にベイルート市中央区に設置された、AA研の海外研究拠点です。周囲には、レバノン議会議事堂、国の式典などが行われる殉教者広場、レバノンで最大のムハンマド・アルアミン・モスク、マロン派教会、ギリシア正教会、首相官邸、在レバノン日本大使館などがあります。

JaCMESでは常駐の特任研究員（現員：篠田知暁）が現地研究に専念するとともに、AA研の共同利用・共同研究課題（現プロジェクト「現代アラブ君主制における正統性原理の変容と再興—イスラーム主義との相克」研究代表者：石黒大岳・日本貿易振興機構アジア経済研究所）が実施されています。

さらに、「ベイルート若手研究者報告会」を2006年以来ほぼ毎年開催し、大学院博士後期課程以上の若手研究者を対象に公募・選考して派遣し、レバノンや中東・ヨーロッパ諸国からコメンテータの研究者を招聘して、研究発表と討議の場を提供しています。若手研究者にとっては、自らの研究を海外の専門研究者の前で発表し、質疑を通して評価を得る貴重な機会になっています。このほか、ベイルート・アメリカン大学をはじめとする諸大学やベイルート・オリент研究所（ドイツ）などの研究機関との共催による公開講演会や現地研修セミナーを開催するほか、映画会議も開催し、毎回日本から関係研究者を招聘して、歴史・経済・文学・芸術・社会・環境問題など多岐にわたる学術交流を推進してきました。

https://meis2.aa-ken.jp/base_beirut.html



海外の研究者との連携と交流をより活発に行ない、国際的な共同研究を展開していくために、ベイルート（レバノン）とコタキナバル（マレーシア）の2ヶ所に海外研究拠点を設置しています。



コタキナバル・リエゾンオフィス（略称 KKLO）

海外研究拠点KKLOは、2008年3月1日にマレーシア国サバ州コタキナバル市に開設されました。同オフィスは、東京外国語大学が2005年度から5年計画で実施している中東イスラーム研究教育プロジェクトの一環として設置されたもので、ベイルートに既に設置されていた中東研究日本センターに続く同プロジェクトによる2番目の海外研究拠点です。

KKLOは、東南アジアにおける政治・社会・文化に関する総合的学術研究拠点として、サバ州政府により設立されたサバ開発研究所 (Institute for Development Studies [略称:IDS]) の全面的な協力により、同研究所内に設置されました。設置以来、KKLOでは、日本人研究者によるコタキナバルでの現地講演会や、東南アジアの研究者との合同による国際ワークショップやシンポジウム等を定期的で開催しています。

なおKKLOの位置するサバ州は、ブルネイ、インドネシア、フィリピン等の東ASEAN成長地域、南シナ海及びインド洋の交差点にあたり、多様な文化の交流地域を形成しています。AA研は、アジア海域世界のダイナミズムの解明にとって最適なこの地を研究拠点とし、マレーシア、日本及び関連諸国の研究者と関係者に利する多様な国際共同研究プログラムを今後とも推進していきます。

https://meis2.aa-ken.jp/base_kotakinabalu.html

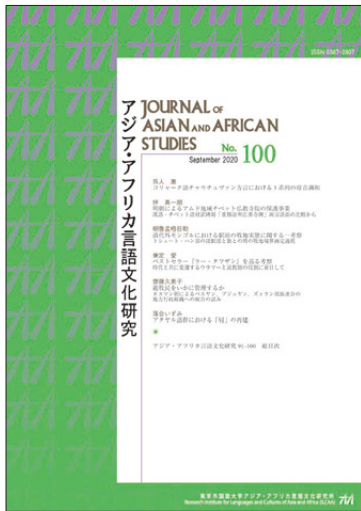


●定期刊行物

『アジア・アフリカ言語文化研究』

(年2回発行)

国際学術雑誌『アジア・アフリカ言語文化研究』(*Journal of Asian and African Studies*. 略称 JAAS. 1968年創刊)は、所外の研究者をふくむ編集専門委員会、および所員からなる編集部によって運営され、毎号、査読を経た高水準の言語学・人類学・歴史学・地域研究に関する論文、資料が掲載されています。海外からの投稿も多く、国内外から高い評価を得ています。年2回(3月・9月)刊行、2021年3月末刊行の101号よりオンライン誌となりました。



<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/publications/jaas>

『FIELDPLUS』

(年2回発行)

AA研では2009年より、一般向けの雑誌『FIELDPLUS』(フィールドプラス)を刊行しています。AA研スタッフ・共同研究員をはじめ、人文科学以外の研究者も執筆陣に迎え、世界のあらゆる場所をフィールド(調査地)とする研究者たちの、新しい発想・取り組みやその過程で得られた経験を、さまざまな角度から紹介します。年2回(1月・7月)刊行、高校生などの若い世代を含む多くの読者を対象として、豊富なカラー写真や図版を使いながら、フィールド研究の面白さを伝えていきます。



<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/publications/field-plus>

●オンラインジャーナル

『アジア・アフリカの言語と言語学』

(年1回発行)

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/publications/aall>

『NUSA』

(年2回発行)

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/publications/nusa>

展示企画

AA研スタッフが収集したアジア・アフリカの言語・文化に関する貴重な資料や、さまざまな共同研究プロジェクトの成果を広く一般に公開するための企画展を毎年開催しています。

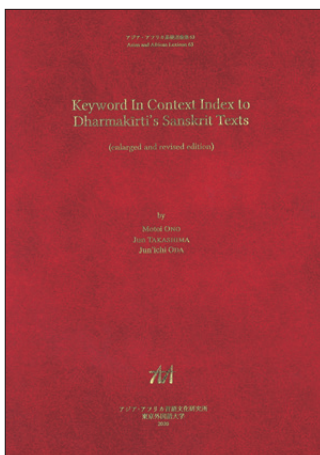
過去の展示企画についてはこちらをご覧ください。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/event/exhibitions>



●書籍 2020年度刊行物一覧 (◆は電子出版)

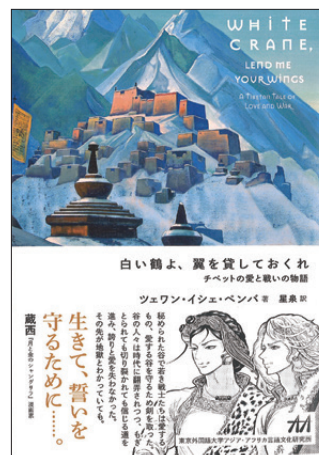
- B309 *ORAL TRADITION OF KUI PEOPLE'S LEGO-LEGO IN ALOR ISLAND, EAST NUSA TENGGARA: Calling the past through song.* Katubi. 2021.1. ISBN 978-4-86337-309-9
- ◆B310 『2019年度言語研修「ゾンカ語」研修テキスト2 ゾンカ語基礎語彙集』西田文信 2020.7.31. ISBN 978-4-86337-310-5
- ◆B311 『2019年度言語研修「ゾンカ語」研修テキスト3 ゾンカ語表現集』西田文信 2020.7.31. ISBN 978-4-86337-311-2
- B317 『アジア・アフリカ基礎語彙集63』*KWIC Index to the Sanskrit Texts of Dharmakiirti.* Ono, Motoi, Takashima, Jun, Oda, Jun'ichi. 2020.7. ISBN 978-4-86337-317-4
- ◆B320 『2019年度言語研修「ジンポー語」研修テキスト1 ジンポー語文法入門』倉部慶太 2020.6.30. ISBN 978-4-86337-320-4
- ◆B321 『2019年度言語研修「ジンポー語」研修テキスト3 ジンポー語用例辞典』倉部慶太 2020.6.30. ISBN 978-4-86337-321-1
- ◆B322 『2019年度言語研修「ジンポー語」研修テキスト2 ジンポー語読本』倉部慶太 2020.6.30. ISBN 978-4-86337-322-8
- B330 『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築(第4回)』床呂郁哉(編) 2020.7.17. ISBN 978-4-86337-330-3
- B331 [LSTCA-126] *The Thamidai Language.* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.7.14. ISBN 978-4-86337-331-0
- B332 [LSTCA-127] *The Kanaw(Danaw) Language.* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.7.14. ISBN 978-4-86337-332-7
- B333 [LSTCA-128] *The Nantwei Kayan Language.* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.7.14. ISBN 978-4-86337-333-4
- B334 [JS-6] *Transcending the syllables: The Añang Nirartha.* Fletcher, Margaret. Worsley, Peter(ed.) 2021.2. ISBN 978-4-86337-340-1
- B335 『アフリカ諸語の声調・アクセント』梶茂樹 2021.3.31. ISBN 978-4-86337-335-8
- B336 [LSTCA-129] *The Pimon Kayan Language.* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.9.16. ISBN 978-4-86337-336-5
- B337 [LSTCA-130] *The Sonplao Kayan Language.* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.9.16. ISBN 978-4-86337-337-2
- B338 [LSTCA-131] *The Pao Language (Its Taunggyi and Kokareit Dialects).* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.9.16. ISBN 978-4-86337-338-9
- B339 『白い鶴よ、翼を貸しておくれ』ツェワン・イシュ・ペンバ(著)・星泉(訳) 2020.10.2. ISBN 978-4-86337-339-6
- B340 [LSTCA-Extra Edition] *A Handbook of Comparative Kayan Languages.* Shintani, Tadahiko L.A. 2020.11.30. ISBN 978-4-86337-340-2
- B341 *Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia (Vol.3).* Tokoro, Ikuya, Tomizawa, Hisao(eds.). 2021.3.15. ISBN 978-4-86337-341-9
- B342 『「あまもり」こわいーブリヤートの民話』山越康裕(監修・モンゴル語・日本語)、ハリヤ(絵) 2021.3.26. ISBN 978-4-86337-342-6
- B343 *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu vol. 2: A microparametric survey of morphosyntactic microvariation in Southern Bantu languages.* Lee, Seunghun, Abe, Yuko, Shinagawa, Daisuke. 2021.3.25. ISBN 978-4-86337-343-3"
- B344 *Thiqa Project News no. 1.* Thiqa Project, Office of Organizer. 2021.3. ISBN 978-4-86337-344-0
- B345 *How are Young People in Africa Thinking and Living?* Shiino, Wakana, Shiraishi, Soichiro, Karusigarira Ian. 2021.3.30. ISBN 978-4-86337-345-7
- B346 『ブリヤート語逆引き辞典』BADAGAROV Zhargal & 呉人徳司 2021.3. ISBN 978-4-86337-346-4
- B347 『チベット文学と映画制作の現在 SERNYA vol. 7』星泉, 海老原志穂, 岩田啓介, 大川謙作, 三浦順子(編) 2021.2.22. ISBN 978-4-86337-347-1



[アジア・アフリカ基礎語彙集63]
KWIC Index to the Sanskrit Texts of Dharmakiirti.



『トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築(第4回)』



『白い鶴よ、翼を貸しておくれ』

上記以外のAA研出版物については下記をご覧ください。
<http://www.aa.tufts.ac.jp/ja/publications>



飯塚 正人 教授
イスラーム学・中東地域研究



床呂 郁哉 教授
東南アジア島嶼部の人類学



児倉 徳和 准教授
記述言語学, シベ語(満洲語口語)



太田 信宏 教授
インドの歴史



中山 俊秀 教授
ワカシュ諸言語(北米北西海岸),
言語類型論, 言語人類学



椎野 若菜 准教授
社会人類学, 東アフリカ民族誌



河合 香史 教授
人類学, 東アフリカ牧畜民研究



西井 凉子 教授
東南アジア大陸部の人類学



品川 大輔 准教授
バントゥ諸語, 記述言語学



栗原 浩英 教授
ベトナム現代史



星 泉 教授
チベット文化圏の言語学



野田 仁 准教授
中央アジア史, 露清関係史



呉人 徳司 教授
言語学, チュクチ語



峰岸 真琴 教授
タイ語学, 東南アジア諸言語,
オーストラリア語族



山越 康裕 准教授
モンゴル諸語



黒木 英充 教授
中東地域研究・東アラブ近代史



渡辺 己 教授
セイリッシュ語



吉田 ゆか子 准教授
文化人類学, インドネシアの芸能・
宗教・仮面文化の研究



近藤 信彰 教授
イラン近代史



荒川 慎太郎 准教授
西夏語学, 西夏語文献学



安達 真弓 助教
ベトナム語, 語用論, 社会言語学



澤田 英夫 教授
ビルマ系少数言語の記述, 東南ア
ジア大陸部インド系文字の体系



石川 博樹 准教授
アフリカの歴史



河合 文 助教
人類学, 東南アジア, オラン・アスリ



塩原 朝子 教授
言語学, インドネシア諸言語の記
述研究



伊藤 智ゆき 准教授
音韻論, 中期朝鮮語, 中国語中古音



熊倉 和歌子 助教
西アジア地域研究・歴史学



高松 洋一 教授
オスマン朝史, 古文書学, アーカイ
ブズ学



小倉 智史 准教授
南アジア地域研究・歴史学



倉部 慶太 助教
ジンポー語, チベット・ビルマ諸語,
ミャンマーの言語



外川 昌彦 教授
南アジアの人類学, インド・バンガ
ラデシュ研究

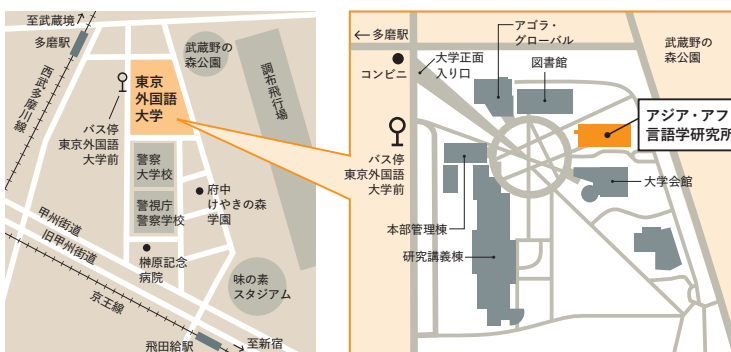


苅谷 康太 准教授
西アフリカ・イスラーム地域研究



後藤 絵美 助教
現代イスラーム研究, ジェンダー

交通案内



- JR中央線「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車徒歩5分(JR新宿駅から約40分)
- 京王線「飛田給」駅北口から京王バス「多磨駅行き」に乗り
「東京外国語大学前」下車(約10分)

東京外国語大学
アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534
東京都府中市朝日町3-11-1
TEL : 042-330-5600
FAX : 042-330-5610
HP : <http://www.aa.tufts.ac.jp/>



詳しいアクセス方法は
QRコードから
ご確認ください。